

瑞岩寺報

2017.08.01
(平成29年 葉月)

【お盆号】

お盆総合案内

お盆法要

今年のお盆法要は左記の通り行なわれます。

【期 日】8月5日(土)

【時 間】午後1時より法要

午後1時半より井上広法さんによる法話

【お盆の供養料】

◎先祖供養塔婆 5,000円

◎新盆供養塔婆 10,000円

【内 容】檀信徒すべての精霊のお盆法要をします。

◎新盆塔婆供養

◎先祖塔婆供養

◎『般若心経』

◎御詠歌

法要後、お塔婆をお持ち帰りください。

粗品がございますので出欠席の返信をFAXください。

お盆棚経参り

【期 日】8月2日(水)～8月12日(土)

例年通り各家へのお盆のお参りはお盆法要終了後から開始します。住職が

早朝から夜まで約320軒の檀家さんを回りお棚経をあげます。お布施は結構ですので、どうしても都合の悪い場合は都合のよい日を返信ください。短い時間ですが、ご家族と一緒に参りをお願ひ申し上げます。

お盆参り予定日程 ※多少変更される場合もあります

6月30日(金)～15日(土)	東京・神奈川・埼玉南部
8月1日(火)	太田市外(群馬県外・前橋・館林地区)
8月2日(水)	太田市外(足利・桐生地区)
8月3日(木)	太田市内(太田地区)
8月4日(金)	萩原地区、その他
8月7日(月)	七日市、落内、唐沢地区
8月8日(火)	丸山、清水、反丸地区
8月9日(水)	矢田堀地区
8月10日(木)	矢田堀地区
8月11日(金)	(予備日)

【時間】(早朝)6:00～9:00 / (午前)9:00～12:00 / (午後)12:00～15:00 / (夕方)15:00～18:00

お墓そうじ

瑞岩寺にお墓のある方へのご案内です

【日時】7月29日(土) 午前6時頃から

お盆が近づいてきました。お墓のお掃除をしましょう。お盆前の一斉お墓掃除を右記のごとく行ないます。たまには早起きしてお墓掃除も気持ちいいものです。お子さんやお孫さんといっしょにどうぞ。

◆強制ではありません。この日この時間でないといけないということではありません。◆自分のお墓の掃除が終わったら通路など共有の場所のお掃除も積極的にお願いします。◆遠方の方はお寺でやっておきますのでご安心を。◆飲み物の用意、あります。

Attention!!

以下の点に留意ください。

【お盆法要について】

◎お盆供養塔婆について、「必要」、「不要」を返信用紙に記入してFAXください。

◎「必要」の場合はお盆法要に「出席」・「欠席」を返信用紙に記入してFAXください。

◎「必要」で「欠席」の場合は、必ず8月5日以降に塔婆を受け取りに出てください。

塔婆供養料の振込みを同封します。毛里田地域の方は世話人さんにお渡しください。

塔婆を受けられる方は風呂敷などを、ご持参ください。

【市内・県内外の檀信徒の方に】

市内・県内外の方は同封の振込用紙

をお使いください。

県外の方でお塔婆をお供えできない方は瑞岩寺でお墓にお供えいたします。ご一報ください。

【お盆参りについて】

◎お盆参りについて「必要」・「不要」を記入してFAXください。

◎「必要」と記入されたお宅には、8月初めにお参りします。

◎「不要」ならばに「返信なし」の場合はお参りには伺いません。

「必要」だけ日時が合わない場合は、希望日をお書きください。調整いたします。

返信期日までに必ずお送りください。その結果により順番を決めお参りします。

返信FAXは7月31日必着です。

【永代供養墓・水子供養墓関係者の方へ】

永代供養墓または水子供養墓にお入りになっている方については、瑞岩寺で責任をもってお盆の供養をしておりますが、個別でのお塔婆を希望される方はお申込みください。供養料は前項にある通りです。

【ペット供養墓関係者の方へ】

ペットの合同供養は左記の通り行なわれます。

【日 時】8月5日(日) 午前10時より

【お盆のペット塔婆供養料】4,000円

◆強制ではありませんので、ご供養し

青木新門さん 寺子屋講演会

「いのちのバトンタッチ〜映画『おくりびと』に寄せて〜」

3月20日に開催されました、寺子屋講演会のご講演者は映画『おくりびと』の原作者青木新門さんです。

青木さんのプロLOG「新門日記」には、冒頭にこう書かれている「人生の最高の幸せは生・老・病・死の全過程を安心して生きることです」と。

私も「たのきんトリオ」や「少年隊」世代であり、僧侶を題材にして映画『ファンシーダンス』の主演を演じたモックンこと本木雅弘さんには親しみがある。そして一見人が嫌悪するような納棺夫という仕事を尊い生業として生き生きと描いた映画『おくりびと』には衝撃を受けたと同時に、この青木新門さんに是非お会いしてみたいという想いが前々からあった。

実際お会いしお話を聴き、ことに満州での出征。その後2歳の妹の遺体を背負って焼き場まで行ったこと。大学での挫折、生活の不安などから葬儀社への就職。親族からの嫌がらせなど聞けば聞くほど壮絶な人生を送られた。



てきた。そして、主人公の本木雅弘さんと青木新門さんがオーバーラップした。

そんな壮絶な人生を本木さんとの出会いから、映画が米国アカデミー賞を受賞するまでのエピソードを涙と軽快な笑いで語っていただきました。

インド・ベナレスで「生と死がつながっている」と実感された本木さんは、その何か分からない不思議な光に包まれて『納棺夫日記』に出会ったという。

映画では大分カットされた本来青木さんが伝えたかった宗教的な部分それは人間の根源的な疑問「人は死んだらどうなるのか？ 仏教の往生とはどういうことなのか？」ということだった。書籍『それからの納棺夫日記』の中にはこう書かれている。

「いのちのバトンタッチは、生と死が交差する生死一如の『現場』にしかない。」と。映画の中で納棺夫である本木さんが奥様役の広末さんから「穢らわしいから触らないで」と言われ落ち込みながら、元彼女のお父様の納棺をする場面がある。その時に、隣で涙する元彼女が青木さんの滴る額の汗を拭いてくれて感じたのが「軽蔑や哀れみや同情など微塵もない、男と女の関係を越えた、何かを感じた。私の全存在があるのまま丸ごと認められたよ

うに思えた。そう思うと嬉しくなった。」と。

青木さんが、納棺夫が素晴らしい生業で自信を持てたのはこの正にこのような体験の積み重ねだ。そして嫌味を言われ絶縁状態にあった叔父の納棺もされている。その時に、「憎しみ」は「涙」に変わり「あらゆるものが輝いて見えた」という。書籍『飛鳥へまだ見ぬ子へ - 若き医師が死の直前まで綴った愛の手記 -』の一節にこういうものがある。「その夕刻。自分のアパートの駐車場に車をとめながら、私は不思議な光景を見ていました。世の中が輝いて見えるのです。スーパリーに来る買い物客が輝いて見える。走り回る子供たちが輝いている。犬が、垂れ始めた稲穂が雑草が、電柱が、小石までが美しく輝いて見えるのです。アパートへ戻って見た妻もまた、手を合わせたいほど尊くみえたのでした。」

たぶん、死が近づけば近くほど、自分の生の奇跡や有難さが意識されずべてのものが光り輝いて見えるのだらう。それを仏教では「無量光」とか「アミターバ」という。道元禅師様も「生死一如」とお説きになられている。きつと、ベナレスで本木さんが体感したのもこれだ。「死」は頭の中には無い。「死」は体験の中にしか無いのである。

私も檀徒さんから葬儀の連絡が入るとすぐに枕経に向かう。死後硬直が始まる前(三時間くらい)の顔は本当に柔和で優しい顔を誰もがしている。私はわざわざお顔を覆っている布を取ってお経を唱えるがこれは参列者にご尊

顔を見ていただきたいからだ。そのときに正に「いのちのバトンタッチ」が行われる。枕経こそ一番大事だと思っ

ている。「死」は体験でしか分からない。

ある文集におじちゃんの死に立ち会ったお孫さんの手記がある。「ぼくはおじちゃんがなくなる前の3日間いろんなことを教えてもらいました。人が亡くなると悲しいのだからかかってテレビを見ていて不思議でした。でも、いざおじちゃんが亡くなるうとしている正にその側にいるとき僕は悲しくて辛くて涙が止まりませんでした。その時、僕はおじいちゃんに人のいのちの重さ、尊さを教えて下さったような気がしました。最後に、どうしても忘れられないことがあります。それは、おじいちゃんの「笑顔」です。いつまでも僕を見守ってくれることを約束して下さっているような「笑顔」でした。おじいちゃん、本当にありがとうございました。」

こんな素晴らしい「いのちのバトンタッチ」が行われれば僧侶のお経など必要ないかもしれない。このお孫さんはこの悲しみを明日の生きる糧にすることができらるだろう。きつと、神戸の連続殺人事件のような少年には育たない。

『死の瞬間』を著した精神科医のキユーブラー・ロスは「末期患者が最も安心するのは何らかの方法で死を克服した人が患者の側にいることである」とおっしゃっている。

それが僧侶である私の大切な役目かもしれないと思った。 合掌

〈プロフィール〉

青木新門（あおきしんもん）
1937年富山県（下新川郡入善町荒又）生まれ
早稲田大学中退後、富山市で飲食店「すからべ」を経営する傍ら文学を志す。吉村昭氏の推挙で「文学者」に短編小説「柿の炎」が載るが、店が倒産。

1973年冠婚葬祭会社（現オークス）に入社。専務取締役を経て、現在は顧問。

1993年葬式の現場の体験を「納棺夫日記」として著し、ベストセラーと

千葉公慈さん 寺子屋講演会

「お寺に出かけよう〜楽しいお経の物語〜」

3月18日に開催されました、寺子屋講演会のご講演者は、テレビ朝日『ぶっちゃけ寺』で何度も一緒に語っていただき番組の中でぶっつけ本番の問答をさせていただいた（笑）日本で一番有名なお坊さん千葉県の千葉公慈さんでした。

まず、最初に私達がテレビに出演していたのは、お寺業界の内部事情を「ぶっちゃける」目的ではなく、そもそも仏教の教えとは何か？それを子どもからお年寄りまで分かりやすく「ぶっちゃける」ということを目標に皆が努力していたことを説明いただいた。その通りでした。（結構努力していたのです。）

なり全国的に注目される。

著書に「納棺夫日記」小説「柿の炎」詩集「雪道」童話「つらの坊や」チベット旅行記「転生回廊」など。なお、「納棺夫日記」は1998年に米国で「Coffin man」と題され英訳出版され、中国語、韓国語でも翻訳されている。また2008年に「納棺夫日記」を原案とした映画「おくりびと」がアカデミー賞を受賞して再び注目される。

ブログ新門日記

<http://www.7biglobe.jp/~amitaabha/>

今回は「お経の物語」ということで仏教には、素晴らしいストーリー（物語）が数多く存在することを紹介。私達は普段使用している「涅槃」や「悟り」という言葉も要は「気づき」であり、とても身近なもの。
その昔、人間の心臓を取り出して神に捧げる宗教があった。その際、仲間の命を助けるためにサンギツチャ少年は自分の命を捧げようと申し出るが、そのまさに首を切り落とそうとするときに、落雷が落ちて彼は助かる。その後多くの山賊が少年サンギツチャに弟子入りをする。そのときに、ブツダは、「彼は涅槃した」と言ったという。

「お経」の意味は太い縦糸だ。お釈迦さまの教えを正しく伝えようとするために、弟子たちがその教えを紙に残して太い糸で繋いだものだ。そして、「教え」（経）「ルール」（律）「説明書」（論）の3つが三蔵といい。これをマスターした僧侶が「三蔵法師」と呼ばれた。

多くの楽しい「ストーリー」をお話していただきました。中でも、現代にも通じる教え、それは「決してあきらめない強い信心」です。

「ぶっちゃけ寺」のロケのリクエストで先生が一番訪れたかったという福島県相馬市の「百尺観音」。

この「百尺観音」ストーリーがすごい！なんと観音像が彫られ始めたのは昭和6年だという。信心深かった荒巻明さんが全国遊行の末、巨大仏建設を思い立ち制作を開始したのがそもそも始まり。

世間の冷たい視線にもめげず彫り続ける事、三十数年、昭和38年について荒巻明氏は力尽き制作途中でお亡くなりになった。

しかし、この後が尋常ではない。何と二代目の保彦氏が父の志を継いで大観音制作！しかし初代義明氏の死からわずか15年後、二代目保彦氏も53才という若さで他界。

しかし祖父、親父、が作り続けた大観音、三代目の嘉道氏が制作し続けているという。未だに完成していない。ちなみに現在の高さは88尺（約27メートル）。完成した暁には118尺（約36メートル）になるといふ。

らしい。禅の言葉に「発心百万発」と言う言葉がある。最初の「発心」は何度もあきらめずに起こし続けるべきである。3代に渡って掘り続けるまさに「奇跡」そのストーリーに多くの観光客や村人が毎日手を合わせ、3・11の原発にも負けないような勇気を村人たちに与え続けているという。たった一人の想いが福島全体、日本全体に広がろうとしている。

これが正に何千年も続くお経の力なのでしよう！ 合掌

〈プロフィール〉

千葉公慈（ちば こうじ）

1964年、千葉県市原市生まれ。駒澤大学大学院人文科学研究科博士後期課程を満期退学。現在、駒沢女子大学人文学部日本文化学科学科主任教授。曹洞宗宝林寺住職。

千葉県いちばら観光大使。専門分野はインド仏教。著書は『知れば恐ろしい日本人の風習』河出書房新社、『仏教から生まれた意外な日本語』河出書房新社、『心に花を咲かせる言葉』双葉社、『運がよくなる仏教の教え』集英社（萩本欽一・千葉公慈共著）ほか。



日々のストレスから解放され 幸せに生きる方法

仏教と心理学から学ぶ

あなたもこんなストレスに悩んでいませんか？

嫌な思いをすると
1日ずっと引きずってしまう

将来の事を考えると
不安で押しつぶされそうになる

思い描いていた生活とかけ離れていて
やる気が出ない

もしあてはまるなら、是非参加してください。
このような日々のストレスから解放され
幸せに生きるヒントを
持ち帰ることが出来ます。



＜講演者プロフィール＞
井上広法 (いのうえこうほう)

1979年宇都宮市生まれ、浄土宗光琳寺 副住職
佛教学で浄土学を専攻したのち、東京学芸大学で臨床心理学を専攻。仏教と心理学の立場から現代人が幸せに生きるヒントを伝える僧侶。マインドフルネスをベースとしたワークショップ学校や企業など全国で開催している。お坊さんが答える人生相談サイトhasunohaを企画運営。テレビ朝日「ぶっちゃけ寺」などメディアにも多数出演。主な著書には「心理学を学んだお坊さんの幸せに満たされる練習」(永岡書店)、「つながる仏教」(株ブラ社) (hasunoha お坊さんお悩み相談室) (小学館集英社プロダクション) などがある。

井上広法 講演会

「息抜く力は生き抜く力」

2017年
8月5日(土)

開場13:00 開演13:30より

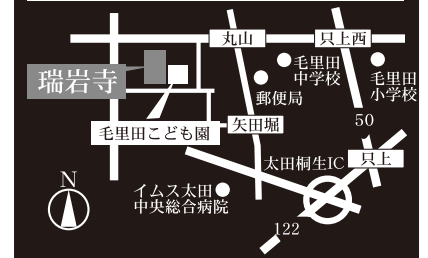
講演会場

慈眼山 瑞岩寺 太田市矢田堀町388

費用

1000円 ※檀信徒無料

会場案内図



後援

上毛新聞社／群馬東部よみうり新聞社
エフエム太郎／キクタス／群馬テレビ

主催

慈眼山 瑞岩寺

〒373-0016 群馬県太田市矢田堀町388

サイト <http://zuiganji.com>

TEL 0276-37-1231

お知らせ

◆podcast好評配信中！

「HASEEの金曜は聴きこみ寺」
ホームページからダウンロードできます！

最近、いつコンビニに立ち寄りましたか？唐

突な質問で困惑させてしまいましたね。普段の

生活において、気軽にフラットと、もしくは何か

が足りない時に近くのコンビニに立ち寄るのは

よくある日常です。でも、こまった時、何か心

に引っ掛かる悩みが生まれた時、あなたはどの

ようしていますか？当番組は、群馬県・太田市にあ

る瑞岩寺の住職・HASEEさんの、実はコンビ

ニの倍近くの数が存在するお寺に、何かあれば

フラットと立ち寄ってほしいをテーマに生まれま

した。「職場の上司と反りが合わず仕事が苦痛

です」「子どもの好き嫌いが多くて困っていま

す」「ミュージシャンへの夢を捨てきれず悩ん

でいます」「明日は初デート！どうしよ

う！」etc. 人には言えない悩みも、日常

のささいな疑問もHASEEさんにおつけてみて

下さい。何かと忙しく、悩み多い日々。

お耳をお貸し下されば、少し疲れたそんな心を

HASEEさんがチャクリとホンワカ癒やします。

【HASEEへの質問・お悩み相談は】

kikikomi@zuiganji.com へ

ペンネーム、年齢、性別などもお寄せ下さい！

・ iTunes でお聴きになる方には、
https://itunes.apple.com/jp/podcast/
komatta-shino-tingkikomi-si/
id624486999?mt=2
・ PCで直接聴取される方は、
http://podcast5.kitdas.jp/kikikomi/

すべての人に佛さまの智慧と慈悲を

宗教 慈眼山 瑞岩寺

群馬県太田市矢田堀町388

TEL:0276-37-1231/FAX:0276-37-5535

E-mail:info@zuiganji.com

Website:http://www.zuiganji.com

ブログ <http://ameblo.jp/zuiganji/>

◇御意見、御要望はいつでもお知らせ下さい。

◇お身体をお大切に、お健やかに暮らしてくださいませ。

◆み仏さまの御加護を心からお祈りいたします。 合掌